

彩の合気

第28回埼玉県合気道連盟少年錬成会

発行/埼玉県合気道連盟

春の天気はつれなくて。あいにくの薄曇のうえ、時折パラパラと雨も降る中ではあったが、今年も県内各地から合気道っ子たちが元気に集った。今回の会場は和光の総合体育館。普段は剣道場となっている板の間にも畳を敷き詰め、一続きの大きな稽古場となったスペースに二百余名の少年たちと、引率者、来賓、保護者などが所狭しと空間を共にする。



「第28回埼玉県合気道連盟少年錬成会」の主管道場ということで、我々が和光道場の川路師範が挨拶もそこそこに、自ら全体練成を始める。まずは、準備運動。舟こぎ運動、振

合気道と光道場 大澤綾乃

る霊を沈め、上体の回旋、前後屈、側屈、アキレス腱伸ばし、伸脚。ここまででは、他の道場でもよく行う準備運動であろう。四股踏み、腕

回しと続き、いつも通り師範は一言。「はい、仰向けになって。」「?」「?」「?」戸惑う他の道場の子どもたちを尻目に次々とブリッジをする和光道場少年部。さらに「腹筋20回!!」の大きな声が。師範の思いが通じたが、回数を数える声も普段より5割増し。なかなかカッコいいところを見せてくれるじゃない。しかし、「足を上げて」の声を聞いて、明らかに顔が引きつる。床から斜め45度の位置に両足をキープすること何秒だったか(・・・和光道場では時折織り交ぜられる運動ではあるが、時折であるため、この運動に当たったときは、「今日はラッキー(アンラッキー)」ということになっていく。少年錬成会に幾度も引率しているが、四股踏みやブリッジ、足上げに腕立て伏せなどが全体練成の準備運動で行われたのを、そういえば見た記憶がない。演武も道場ごとの色があって興味深い。準備運動もちがいがあって面白いものである。



錬成会の様子



多い。私なんぞは図々しくも他の道場の子を次々捕まえて、ペアの組み換えを進めてしまいが、その後の様子を見ると、思いのほか、「ひとつの技を共通のものとして知っているもの同士、いや同志」として短い時間を共にすることが出来ている。年齢や体格、技能、経験などに差はあれど、合気道に精進する者としての心得や態度に変わりなしという姿を見るのができて、清々しい気持ちになった。各道場の演武もさることながら、年に一度集うこの機会を、「他道場との交流・鍛錬の場」として位置付けてみてはいかがだろうか。来春、大宮道場で一回り大きくなった少年たちに再会するのが楽しみである。

少年錬成会 感想文

「白岡合気会」

一瀬 友(小5)

全体錬成では、となりに並んでいた志木合気会の人とけいこしました。いつもけいこしている人と少しだけちがう感じがしておもしろいと思いました。他の道場の演武を見て、色々ないこがあつて興味深かったです。ぼくは、これからあまりけいこしていなかった、小手返し、回転投げ、飛び受け身ができるようになりたいです。

「合気道自然館」

吾妻 叡(小4)

ぼくは、この錬成会に参加して、たくさんのお話を学びました。前半の稽古では、他の道場の人と稽古をしながら、いろいろなやり方がある面白いなと思いました。道場演武では号令官をやり、とても緊張しましたが、最後まで間違えずにやり通すことができて、練習よりも皆の動きが揃っていたので、嬉しかったです。他の道場の演武も、自分達とは違うやり方があり、とても興味を持ちました。

した。また来年も参加したいです

「新所沢合気道同好会」

ベロフ スヴャトスラフ(小6)

錬成会に参加したのは、これで4回目です。今回は兄と妹と3人で参加しました。県の錬成会は楽しいし、ほかの道場の人も一緒に稽古をできるし、技が上手くなるので毎年楽しみにしています。そしてなによりも、お菓子がもらえるのでうれしいです。なので、来年も参加する予定です。どうもありがとうございます。

「狭山市合気道教室」

鶴巻 浩平(中3)

今回の錬成大会では、初めて号令官に挑戦しました。僕は本番に弱いので緊張しましたが、落ちていてやった結果、成功したので、やって良かったと思いました。更に、他の道場より声が出ていました。これは日頃の成果が出たからだと思います。この調子で、夏の錬成大会も頑張りたいと思います。

「志木合気会」

依田 明澄(小2)

ほかの道じょうとまざってけいこをやったとき、あすが声をかけたら



いいよって言うてくれました。これがおわったら、それぞれの道じょうでえんぶをやって、みんな合わせていっしょのわざをしている道じょうの人をいたし、よこめんうちをしている道じょうの人をいきました。見ていたらきんちようしたけど、あすがえんぶをやるときには、きんちようしなかったです。そのあとの道じょうのえんぶを見ていたら自分もつとがんばろうって思いました。



全日本合気道演武大会を終えて

川越道場 氏原恵美

5月25日、天候にも恵まれ、多くの出場者を迎えての第51回全国合気道演武大会が、無事終了しました。今回の演武大会では、埼玉県合気道連盟の指導者演武という大役を仰せつかりながらも、多くの方の力添えにより、つつがなく個人演武を終えられたことは感慨無量です。



年が明けてまだ春の到来を待ちわびるような時期に、川越道場 島田五郎先生からこのお話を伺いました。他の道場からも候補者が出る中から選出されるといふ可能性の低さ、私のような普通の人間には一生に一度もあり得ない話、ということから、私を川越道場からの候補者として申請するという話を、本当に軽い気持ちで承りました。

有難くも、埼玉県合気道連盟の指導者演武に出場することを許可していただく次第となつて、はじめて事の重大さに気づきました。心技体ともに未熟である私は、常に演武のことが頭を離れなくなり、気が休まらず、楽しかった稽古が苦しいものとなつていききました。普段の稽古が終つた後、演武の練習をするようになりましたが、いくらやっても自分の中ですっきりした流れにまとまらず、散漫な状態のまま時はかりがどんどん過ぎていききました。

そのような状況の中、今回の演武で受け身を引き受けていただいた方々は、嫌な顔もせず、繰り返し何度でも受け身をとってくださいました。他の多くの道場生の方々も、稽古後に長々と私の練習につきあってアドバイスを下さり、また動画を撮って動きを検討してもらうなど多くの支援をいただきました。島田先生も演武内容については全て私に任せ、周りの人にはサポートするよう指示してくださいました。こうして道場全員の長きにわたる温かい支援を受けて、演武がようやく形になったのです。



実際この演武を終えて思うことは、あの畳の上では自分が演武をしたとはいえず、そこには川越道場全体の大きな助力があつてこそ、演武が成り立ったということ。それを私に実感できたことも、私にとって大きな収穫で、引き受けてよかったとあらためて思いました。

この大きな経験を踏まえて、これからも日々稽古に励んでいきたいと思つています。今回、このような機会をつくつてくださった埼玉県合気道連盟理事の皆様をはじめ、島田先生、川越道場の仲間たちに深く感謝いたします。



【特別寄稿】

佐々木の将人先生を偲ぶ

猿田彦道場

渡邊曙光

先生はある日

「犬は人間だった」

と大真面目に言い切ったのである。

上福岡の駅からセレモニー・ホールまでの一本道を歩いている時だった。ゴミが目に入った訳でもないのに何故か左目がシヨボシヨボし始めた。一歩進むごとに鬱陶しさが増し、次第に目を開けていること自体に負担を覚えるような状態の中、ほほ片目でお別れ会場に辿り着く。来賓席は次々と埋まり、立ったまま葬儀を見守る人々に溢れ返る。涙線が弛んでいないにも拘わらず、相変わらず左目の違和感は解消することは無く、直立不動の姿勢を保つこと十数分。

空いている。このことかと思った瞬間「早く二人で座れよー」という声が、今度は直に聴覚を刺激する。ならば迷うことはあるまいと腹を括り、井上先生を誘導して親族席に着する。玉串奉奠は当然来賓より優先されるのだが、立場上やや戸惑い緊張している。「合気親族ということ。」と井上先生は中々乙な事を言う。霊柩車を見送り帰途に着くと、何時しか左目の違和感は消え去り元通りになっていた。

私は、佐々木の将人先生に合気道を学んだことはないが、「感応道交」の師として「合気」の何かを伝授された。特殊な波長によるキャッチボールの相手をしていただいた、と言うべきかも知れない。原因不明の違和感があった左目も将人先生の霊が感応した結果であろう。そう言えば先生は十九歳の時、大工仕事の最中に事故で左目を失明されていたのである。

この感応先生を思い起こす時、最

も印象的で生涯忘れられない一言がある。それは真に受けると混乱を招くが、先生はある日「犬は人間だった。」と大真面目に言いきったのである。脳裏では、この突飛な話の根拠を尋ねたかったのだが、余りに確信に満ち断言的だったために返す言葉がなかった。しかし、啞然としながらも何故かその一言が能の刻み拍子のように、自己の中に浸透することによって、ユングの集合的無意識及び意味のある共時性であるシンクロニスティーを彷彿させているように思われたのである。

そもそもインドに於ける輪廻は、動物が人間へと転生するとされる。犬の起源は古く、東アジアが発祥地であり、縄文人と共存していたというデータを元に、その縄文犬と最も近い骨格を持つのが現在の柴犬である。つまり人間と一番深い関係を築いた動物が犬ということになり、必然的に人間の心を一番理解しているのも犬ということになる。物の本によると、鳴声のワンワンのワがイに転じたか、イナル(ウナル)の語幹イナの転か、遠くからでも飼主のもとへイヌル意ともあり、イは(家)の約音工の転、又はイへ(家)のヌヒ(婢)でイヌル即ち、家に寝ると

ある。また人の守りとも魔よけともなり、物の怪を追いかうということから、幼児の額に「犬」の字を書いたり、そばに犬張子などを置いたりする。反面、こっそりと人の秘密を嗅ぎ付けて告げ知らせる者も犬である。環境が人をつくると言うが、犬もまた長い歴史を経て人と共存することにより同化し、融合したとするならば、本当に犬は人間だったのかも知れない。

將人先生は「犬は人間だった」と言ったものの「人間は犬だった」とは言っていないのである。ご子息の望鳳馨氏によれば「確かに父は生前、犬は人間だった。犬は猫のように獣偏の付かない動物であり、事実、犬という漢字の中に人が居るではないか!と言っていました。」と。

成る程、納得。五月晴れの今日、無限次元の彼方から「オーイやっぱり犬は人間だったゾー!」然もありなん。合掌爆笑。

平成二十五年五月

報告道場行事

第18回 市民武道館武道祭

新所沢合気道同好会 山口裕之

毎年2月第一日曜日に、所沢市民武道館を利用して8団体が協力して、「所沢市民武道館武道祭」を開催しています。平成25年2月3日は18回目、午前9時に開会しました。開会式では、講道館柔道八段の清藤先生による魔払い太鼓が行われ、会場の空気が引き締まりました。

演武は毎年弓道から行います。幅十六間の柔剣道場に射場を特設し、中学生から高段者まで演武されます。洗練された所作と、矢の速さ、力強さに圧倒されます。弓道の後は柔道、太極拳、空手、合気道、杖道、剣道、なぎなたの順

に演武を行い、最後に剣道対なぎなたの他流試合が行われ、無事閉会となりました。

合気道の演武では、所沢市合気道連盟加盟3団体(新所沢合気道同好会・並木合気道クラブ・合気道き



さらぎ会) が合同で、団体演武・指導者演武・師範演武の3部構成の演武を行いました。団体演武では、御手洗七段が指導し、会員総出で正面打第一教、片手取四方投、正面打入身投を行いました。若手の力強い動きあり、少年部も参加しての和気



藹々とした親子演武もありと、老若男女が楽しめる合気道の魅力を紹介しました。続く指導者演武では、3団体の指導者6名がそれぞれ自由演武を行いました。各指導者の個性が発揮されましたので、同じ名称の技を行っても見る方の印象はずいぶん違ったものになっていると思われま

す。畑山七段の演武に続き、最後は当連盟師範である針すなお八段の演武です。針師範が創始された「体の杖」演武では、杖を持つ針師範に対し、まずは私が杖で突き、あるいは打ちかかっています。針師範は杖を持ちながら捌き、投げ、あるいは抑え、私は杖をとられたり、打突されたりと、数種類の技を披露しました。受が交代し、今井六段が木刀で打ちかかっていますが、針師範は同様に杖を体の一部として操り、捌き、投げ、抑えていきます。「夢枕」という技で木刀を取り上げ、杖とともに脇に置いたところで、体の杖は終了です。と、間髪いれずに受が手刀で打ち込み、徒手での合気道演武が始まります。静から動へと一転し、正に流れるように技が繰り出されます。受が木村三段に交代し十数合、今回も見とれているうちに合気道演武は終了しました。

武道館を共通の道場とする仲間それぞれが、自分達が愛する武道を皆に紹介する武道祭。今年も各武道それぞれの良さを感じながら、他の武道を研鑽している小中学生から成人・熟年男女に合気道を紹介することができました。

第20回 入間市武道祭

入間幸武館道場 明保幸

武道祭は2月11日建国記念の日に市の武道館に於いて開催されました。主催は教育委員会・体育協会、主管は武道連絡会です。この武道連絡会には市内の柔道連盟・剣道連盟等10武道団体が加盟しており、教育委員会・体育協会の協力を得ながら各武道団体の意見の集約を行い協調のもとに運営されています。

武道祭の趣旨は日本のよき伝統文化を伝えるとともに武道を広めることを目的としています。従って一般の体験参加もおこなっており、本年は特に弓道に多くの体験参加があつて捌ききれないほどだったと聞いています。

開会式は教育長の挨拶から始まりですが、市長・議長・県議他、今年中学校の武道必須の動きもあり、全小中学校の校長先生の来賓を賜り、盛大に行われました。式中に行われる代表演武は各武道団体の持ち回りであり、合気道も過去に2度行いました。今年も剣道連盟が一同の会する中で技を披露しました。私としては、



他武道のなりわいを見学できることは機会も少なく、中々いい物であると感じています。

開会式が終わると10の武道団体が決められた配置の中で一斉に演武を行うこととなります。合気道連盟は市内3道場と一緒に合同稽古を行いました。先ず少年部から稽古し、その後大人の部となりました。少年部も大人の部も各道場の先生がかわるがわる指導するので、いつもの先生とは違う指導もあり中には戸惑うことも多々ありました。また普段稽古する相手ではない相手と行うので、新しい発見もあり興味深い一日となりました。ちなみに合気道には10名弱の体



験参加者があり、例年より盛況でした。各道場の案内書も配布しています。各道場の案内書も配布しています。が、体験から入会して会員になる人が増えてくれることを期待しています。武道は礼に始まり礼に終わると言われるように、殺傷を目的とする武術から、人としての素養に重きを置いて進展したものであります。私は、この武道を以って心身を鍛錬し人格を磨くことは、今の時代だからこそ必須ではなかるうかと思っています。中でも合気道には勝負がないということ、この要素が際立っています。勝負が無いことで馴れ合いになってもいけないが、老若男女が一緒に稽古できることは素晴らしい事であります。怪我の

ない稽古、和気藹々と稽古、そして健康であること。そんなことを考えながら、合気道は日本が誇れる世界に発信する文化であり、奥の深い技能だと再認識させられる一日でした。

藤枝合気会との スポーツ交流

深谷合気会 副会長 民谷久雄

深谷合気会は、平成6年に結成し、もう少して20年を迎えようとしています。日常の稽古は、深谷市総合体育館の武道場で行っていますが、合気道愛好家との交流を重点に、本部道場の稽古や県連主催の合同稽古にも積極的に参加させていただいています。

今年の2月17日には、深谷市と友好都市の静岡県藤枝市の藤枝合気会からスポーツ交流事業として、合同稽古にご招待をいただきました。深谷市は埼玉県でも北部に位置し、藤枝市は富士山の南側に位置するため、バスを貸し切って会員20人が早朝に出発し、何とか午前中に行われた静岡県合気道連盟理事長の石原先



生ご指導による合同稽古に間に合いました。

昼休みには、藤枝合気会の会員の方々を中心に、静岡県内の合気道愛好者の皆様と深谷合気会の会員との交流会も開催していただきました。藤枝合気会からは、名物の新茶やみかん等をいただきました。深谷市は、かの有名な渋沢栄一の生誕の地でもあり、東京駅を作った煉瓦も深谷産

であることから、深谷駅は東京駅をミニチュアにした造りとなっております。その駅を模したお菓子(橋上サブレ)をお土産に持参し、さらに深谷のパンフレットを多数配布して、市の宣伝も行いました。また、交流の場を和ませるためにビンゴゲームが実施され、番号が読み上げられる度に埼玉や静岡に関係なく、一喜一憂しながら大変楽しい時間を過ごすことができました。

午後からは、本部道場の入江師範による講習会に参加させていただきました。これまでにない有意義な時間を過ごすことができました。

今回は、藤枝合気会の皆様が深谷市を訪問していただけたとのことでしたので、当会もしっかりと稽古を続け、今回のものに劣らない有意義な稽古と楽しいイベントを実施しようと思っています。

今回のスポーツ交流に際しては、静岡県合気道連盟の大鐘副理事長に大変なご尽力を賜りましたが、この様に合気道を通して友好都市が一層親密になっていく事はとても有意義であり、行政の合気道に対する評価も上がるものと思います。そして、深谷での再会を楽しみに稽古に励んでいます。

◆ ◆ ◆ 平成 25 年度 埼玉県合気道連盟 行事予定 ◆ ◆ ◆

● 第 31 回合同講習会

日 時：7 月 7 日 (日)
午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
場 所：さいたま市大宮武道館 (定員 150 名)
主管道場：合気道大宮道場
指 導：本部道場長代行 植芝充央先生
懇親会：マロウドイン大宮 宴会場
午後 5 時 30 分～ (会費 5,000 円)
さいたま市大宮区桜木町 2-173
tel 048-645-5111

● 平成 25 年度 第 1 回常任理事会

日 時：平成 26 年 1 月 26 日 (日)
午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分
場 所：フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ 8 階 会議室
懇親会：場所未定 午後 5 時 30 分～ (会費 5,000 円)

● 平成 25 年度 第 2 回常任理事会

日 時：平成 26 年 3 月 2 日 (日)
午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分
場 所：フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ 8 階 会議室
懇親会：場所未定 午後 5 時 30 分～ (会費 5,000 円)

※予定は変更になる場合がございます

彩のなでしこ
NADESHIKO

合気道自然館 大田綾音

私が初めて合気道に触れたのは 4 歳の時です。少年部では年齢が上の子供が下の子供に教えるという形が自然と成り立っています。とても小さい時の話ですが、始めたばかりでよく泣いていた頃のことを覚えています。その頃いつも優しく声をかけてもらい、技を教えてもらったり遊んでもらったりしていました。大きくなるにつれて、技を教えることを自然と楽しみながらするようになります。自然館の少年部は明るく元気で、合気道をみんなが楽しんでいます。そして礼をととてもとても大切にしています。

中学生になってから平日は一般の部の稽古に参加するようになりました。初めて稽古した時は雰囲気の違いに驚き不安に感じることもありましたが、知らない間に楽



しい気持ちが増していききました。それは知らない技を教わったり、今まで気付かなかった改善点などを指摘してもらい、意識しながら稽古を続けて自分が成長できていると感じたり、大人の方々が厳しい技をしながらも優しく接してくれて嬉しかったからです。

高校生になると学校の合気道部に所属しながら自然館に通い続けました。部活では部長をつとめ、合気道に関わる時間が更に多くなりました。そして初段を取得し、ずっと憧れていた袴をはけるようになりました。実際に初段になると、今までよりもっと頑張らなくてはいけないという実感がわいて、気持ちが引き締まりました。

今は短大に通いながら稽古も続けています。私は合気道をしていない日々の記憶がなく、合気道が生活の一部になっています。今まで様々な年齢層の人と稽古を通じて関わることも出来ました。技術だけでなく、相手を思いやる気持ちや礼の大切さなど、たくさんのことを教えてくれた合気道と、とてもお世話になっているあたたかくて自慢できる自然館が大好きです。これからも技術の向上を目指しながらたくさんのお話を学んで、たくさんのお会いをしながら合気道と一緒に成長出来たら嬉しく思います。

※このコーナーでは県内の女性合気道家をご紹介します。自薦・他薦を問いませんので各道場よりご応募をお待ちしております。

「彩の合気」への
投稿をお待ちしています。

- 道場行事報告 / 原稿 1,000 文字、写真 2 点
 - 彩のなでしこ / 合気道への想いを原稿 800 文字、写真 1 点
- ※画像はプリント写真もしくは写真 1 点あたり 2MB 以上のデータでお願いします。画像解像度が低いと印刷に適応いたしません。(プリント写真はご返却いたします。)

応募は郵送またはメールにて

〒352-0011 埼玉県新座市野火止 5-4-26
埼玉県合気道連盟事務局 佐々木淳一
メールアドレス sasaki.junichi@jcom.home.ne.jp